



被災古墳等の復旧の取組み

～平成 28 年熊本地震で被災した古墳の現状とこれからの取組み～

平成 28 年熊本地震で被災した古墳は 35カ所 42基が報告されています。これら熊本で被災した古墳の築造時期ちくぞうじきの多くは、ほぼ 1600 年前～1500 年前のものであり、そのほとんどが横穴式石室よこあなしきせきしつを有するものです。石棺せつかんの被害や、横穴墓おうけつぼでの壁面崩落へきめんほうらくの報告例もありますが、その多くは、後天的な劣化が、地震によって崩壊したものです。

地震によって被災した古墳としては、兵庫ひょうご県西求女塚古墳にしもとめづかこふん（慶長伏見大地震）をはじめ、各地に存在しますが、古墳を地震被害前の状態に復旧する試みは実はあまり例がありません。

今回被災した古墳は、主体部しゅたいぶ（埋葬施設のこと）が開口しているものが多く、そのなかには、熊本の古墳文化を代表する装飾古墳が含まれています。装飾古墳は、石棺や石室に描かれた装飾を特徴として、史跡として指定されているため、地震の被害把握時には、まず装飾そのものの被害を確認することが先決となります。装飾古墳は内部の装飾の保護（保存と活用）によって、その価値が維持されることから、地震によって石室内部の見学が困難となった装飾古墳の復旧に向けた調査が進んでいます。調査にあたっては、文化庁、奈良文化財研究所、東京大学、熊本大学等から、考古学こうこがく、建築学、保存科学等、各分野の先生方の協力を得て、進められています。

現在は、石室内の入室、見学が困難となった、石室の現状把握のため、地中のレーダー探査たんさ、レーザー測量等による墳丘ふんきゅう、石室の計測、さらに、地震前の石室内部との比較検討を目的とした、県立美術館装飾古墳室や県立装飾古墳館にある装飾古墳レプリカを計測することによって、被害の実態、復旧の方法について検討しています。



地震によって墳丘が崩れた御船町今城大塚古墳



塚原古墳群内石之室古墳の被災状況確認作業

くまもとじしんひさいぶんかざいとうふっきゅうふっこうじぎょう 「熊本地震被災文化財等復旧復興事業」

れきしてきけんぞうぶつ 「歴史的建造物」

熊本地震被災文化財建造物復旧支援事業（文化財ドクター派遣事業）

【事業の概要】

熊本地震による被災した歴史的建造物の被災状況を調査するとともに、所有者又は管理団体からの要請に応じて、^{おうきゅうそち}応急措置及び復旧に向けた技術的支援等を行う事業です。公益財団法人日本建築士会連合会等の協力を得て専門家を被災地に派遣します。熊本県では国指定から未指定までの歴史的建造物を対象に補助制度を新設し、現在復旧に向けて取り組んでいます。

【経緯】

H28.5~8	歴史的価値のある建造物 1687 件の外観調査を実施
H28.11~29.2	被害が大きい建造物 435 件の内部調査を実施
H29.3	歴史的価値のある建造物 114 件（以下「当初建造物」）支援制度創設
H29.5~	当初建造物（114 件）所有者に対する個別訪問を実施
H 29.10	※所有者に対し、保存に向けた協力の要請、技術的支援を実施 第 1 回検討委員会において市町村から推薦のあった建造物（45 件）を補助対象候補として追加

【成果】

- 補助対象候補の 159 件中、127 件（80%）が保存の意向（その他：検討中 8 件・解体済 24 件）
- 当初建造物 114 件中、保存の意向 85 件、検討中 6 件、解体済 23 件
- 追加建造物 45 件中、保存の意向 42 件、検討中 2 件、解体済 1 件

【被災歴史的建造物写真】



熊本市中央区新町「吉田松花堂」



山鹿市「大森家住宅」

【マップ】



文化財レスキュー事業

熊本地震では、たくさんの家や蔵などの建物が被害を受けました。それらの建物等に保管されていた文化財の中には、雨漏りなどで水損（水浸しになる）したり、破損したりするなど被災したものがああります。文化財レスキュー事業は、このような被災した文化財を建物等の中から救出し、一時的に預かって保管し、応急処理やクリーニングなどの整理作業を行い、生活再建の目途が立った所有者に返却する事業です。

文化財レスキュー事業で救出した文化財の数は、平成28年度は建物等28件から約14,400点、平成29年度は建物等15件から約8,800点にのぼります（平成29年度は1月末日時点の数）。今後も建物の解体等に伴って、救出すべき文化財はまだまだ増えていくものと思われます。

このようにして救出した文化財には、漆器や陶磁器、衣服などの民俗資料、屏風や絵画などの美術工芸品、掛軸や古文書などたくさんの種類があります。それらの中からは、今まで知られていなかった貴重な文化財も新たに見つかっています。

現在、県ではお預かりしている文化財の整理作業を実施中です。この整理作業には、多くの方にボランティアでご協力いただいています。また、一緒に整理作業をしていただくボランティアを養成する「文化財レスキュー市民サポーター養成講座」も開催しました。この整理作業は、来年度も県民のみなさんの力をお借りしながら進めていきます。みなさんも、文化財の整理作業に参加してみませんか。



被災した文化財の救出の様子

平成28年熊本地震被災文化財等復旧復興基金

熊本地震で、熊本城などの国指定文化財から、歴史的価値のある未指定の文化財まで、数多くの文化財が被災しました。そうしたことから地元経済界を中心に文化財の復旧を目的とした募金活動が本格化し、県ではその寄附金を財源とする「平成28年熊本地震被災文化財等復旧復興基金」を設置しました。その後、有識者による審議を経て、基金による補助制度を創設しました。

補助制度創設の目的のひとつは民間の被災文化財所有の負担を軽減し、文化財復旧を促進することです。指定文化財や登録文化財だけでなく、公的補助がなかった未指定の歴史的建造物や動産文化財に対しても所有者負担の最大3分の2を補助するこの制度は、過去の震災でも例のない全国初の取組みとなります。

平成28年熊本地震に伴う埋蔵文化財の対応について

ー県外からの文化財専門職員支援を受けてー

熊本県では、平成28年熊本地震を受け地震発生の原因となった布田川断層帯ふたがわだんそうたいに沿い立地する市町村で多くの個人住宅等及び公共施設等に甚大な被害が発生しました。なかでも、国道57号線立野地区たてのちくにおける大規模地滑りでは、貴重な人命が失われるとともに阿蘇大橋の崩落など熊本地震の大動脈である国道等にも被害が生じています。

これら熊本地震からの復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財保護のため、熊本県では地震発生後から、文化庁と復興調査に関する協議を進め、平成29年4月から九州4県から文化財専門職員（以下、「支援職員」という。）による支援を受け、国・県が実施する復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に従事して頂くとともに、被災市町村支援を実施してきました。

8月には国道57号復旧ルートとして計画された、国土交通省国道57号北側復旧ルート建設事業に伴い、大津町で豊後街道ぶんごかいどうの一部に当たる清正公道せいしよこうどうの発掘調査を熊本県職員と支援職員とで共同して実施し、全体事業計画期間内で調査を終えることができました。

また、益城町で県事業として計画されている土地区画整理事業においても、被災市町村支援の一環で実施してきた個人住宅の予備調査等と併せ詳細な踏査を実施し、事業が本格化する前の時点で遺跡の広がり把握することができました。

被災市町村支援として、6月には宇土市教育委員会の依頼で個人住宅に伴う埋蔵文化財支援として轟泉水道ごうせんすいどうの確認調査の実施、11月には宇城市災害公営住宅建設に伴う大塚台地おおつかだいち遺跡いせきの発掘調査及び益城町、御船町へは年度当初から随時、予備調査の支援を実施し埋蔵文化財の保護を図ってきました。

熊本地震を受け、本県職員のみでは復興調査及び被災市町村支援に手が回らなかったところを本年度は支援職員の助力で実施することができました。

平成30年度も、引き続き支援職員の支援を受け、熊本地震からの復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の対応を実施していく予定です。



清正公道現地説明会で説明する鹿児島県職員



あ の歴史上の人物も通った！！

— せいしょこどう 清正公道 —

豊後街道のうち、大津町の中心部にあった大津宿（五里木）から阿蘇市の二重峠（新小屋）までの約4kmの道を清正公道といいます。豊後街道は、熊本城から阿蘇・久住の宿場町を通過して大分県大分市の鶴崎までの124km（31里）を結ぶ江戸時代の街道です。この道は九州を横断し、熊本藩主の参勤交代や経済活動に使われた重要な道で、伊能忠敬や吉田松陰、勝海舟、坂本龍馬も通っています。文化課では、国道57号北側復旧ルート建設に先立ち、大津町大津（高尾野区）で発掘調査を行いました。調査では、江戸時代の道跡と水路跡が確認されました。



今回の調査で確認された清正公道

発掘調査で確認された道跡は、地面を台形に掘りくぼめて左右に法面をつくり、底を道路面として利用する凹道です。道の上幅は16m、深さは3mあり、道路面の幅は約9mあります。これほど大規模な道は、全国的にも珍しいそうです。文化9（1812）年にここを通った野田泉光院の日記には、「法面の左右に杉植えられていた」と記されており、法肩には本来杉が植えられていたと想定されます。慶応元（1865）年にこの道を通った桃節山の日記では、「道は切りさけたるものにて、左右の堤高き所に至而は一丈余（3m）あり」と凹道であったことが記されています。調査成果は、江戸時代の文献記載を裏付けたこととなります。

道路面では、人の往来などによってできたと考えられる窪みと、車輪の轍と考えられる溝が確認されました。道路面は江戸時代～昭和63年まで使われていたため、何度も修復されており、江戸時代と明治時代以降では、道路の修復方法が変わったこともわかりました。

南側法面の中ほどにある平坦面では、水路跡が確認されました。水路は、柵木水道の一部です。柵木水道とは、大津町古城の柵木谷から大津宿までの総延長約8kmにも及ぶ江戸時代の上水道です。この水路は、文化6（1809）年～文化9年（1812）年にかけて大津手永の総庄屋であった齊藤形右衛門によってつくられました。明治2（1869）年に書かれた『諸公役割出覚帳』によると、高尾野の人々に対し、水路の維持管理と考えられる水取という仕事が与えられていたこと、水が役高（役職に応じて支給された俸禄）として米とともに支給されていたと記載されています。

今回の発掘調査では、石畳部分しか調査されていない豊後街道のうち、平坦な部分の道の構造・造成方法がはじめてわかりました。さらに、道の修復方法や柵木水道が確認されるなど、勝海舟や坂本龍馬といった歴史上の人物が歩いた道の実態を知ることができました。

やよいじだいこうきまつ ぼち 弥生時代後期末の墓地

うきしまつばせまち おおつかだいちいせき
—宇城市松橋町大塚台地遺跡—

平成 28 年 4 月に起きた熊本地震では個人住宅が大きな被害を受け宇城市では大塚台地遺跡のある市所有地に災害公営住宅建設を計画しました。今回の発掘調査は、他県から熊本県に派遣された職員と熊本県職員により実施しました。



大塚台地遺跡の墳墓

大塚台地は南に延びる台地で、平成 14 年の発掘調査で弥生時代後期末の集落が見つかっていました。今回の発掘調査地点は市役所を望む台地の東縁部にあたります。調査の結果、台地の縁部よりに一辺が約 15 m の規模を有する溝を方形にめぐらした周溝墓の一部が見つかりました。その西側に隣接して、長さ 1 m ~ 2 m、幅 1 m 前後の規模を有する 30 基の粘土床墓と 1 基の小児カメ棺墓が見つかりました。

溝の中や墓の周辺には、お祭りで使われた土器が多数見つかりました。これらの土器は、土器の種類と形から弥生時代後期末（西暦 200 年から 250 年頃）に製作、使用、投棄されています。この頃は、魏志倭人伝に記された邪馬台国の時代で、各地に首長が生まれ、墳丘墓が造られました。大塚台地遺跡の周溝墓も同様な墓で、この地域の首長墓と考えられます。溝のない粘土床墓は周溝墓に葬られた首長より低い身分の人々の墓と思われます。この遺跡は、今回の調査で、居住域と墓を分けて造っていたことがわかった貴重な遺跡であることから宇城市によって保存されることになりました。

しゅうこう 巨大古墳の周溝を発掘！ —御船町小坂大塚古墳—

おざかおおつかこふん

小坂大塚古墳は、御船町に所在する円墳で、町内を貫流する御船川左岸の台地上に位置しています。大正 9 年に実施された土砂採掘工事の折、古墳の石室が露出したことから、京都大学考古学研究室などによる石室の発掘調査が行われました。その結果、銅鏡、玉類、甲冑をはじめとした鉄製武具など、多彩な副葬品が見つかったほか、「肥後型石室」と呼ばれる熊本県を中心に分布する特徴的な構造を持つ横穴式石室の典型例であることが判明し、学史的に著名な古墳となっています。



小坂大塚古墳の墳丘と周溝

現存する古墳墳丘に隣接する障がい者総合支援施設が熊本地震により被災し、その改築工事に先立ち、予定敷地内を試掘調査したところ、古墳の墳丘周囲を巡る大きな周溝を確認しました。周溝は幅約 15 m、深さ約 2 m と非常に大規模なものと判明し、そこから復元されるかつての墳丘は、直径 50 m にも及び、県内有数の大きさを誇っていたことが分かりました。

現在、施設改築予定範囲の発掘調査を御船町教育委員会が進めており、その調査支援を試掘調査から継続して熊本県教育庁文化課が行っています。調査面積は約 1600 m² ですが、そのほぼ全体を周溝が占めており、その大きさを再確認するとともに、かつての古墳の威容が肌身を通して伝わってきます。

子供用のかめかんぼ甕棺墓？遺跡の新たな面も

たけのしろ ばしょういせきぐん
竹ノ後・芭蕉遺跡群

竹ノ後・芭蕉遺跡群は、龍田中学校の南東、白川のすぐ近くちかにあります。今回の調査では弥生時代やよいじだいの甕棺墓かめかんぼや奈良時代の家の跡（堅穴建物）が見つかりました。甕棺墓とは、亡くなった人を大きな土器にいれ、別の土器で蓋ふたをするものです。調査したところは戦後に行われた田んぼや畑の区画整理でかなり削られていて、甕棺の蓋に使用した土器もなく、底の部分だけが残っていました。土器はそれほど大きくないので、子供を葬ったのかもしれませんが。



＜出土した弥生時代の甕棺墓＞

これまで5回の調査が行われていますが、縄文時代前期の土器や奈良時代に属する堅穴建物は初めての発見で、竹ノ後・芭蕉遺跡群の新たな面が明らかになりました。

熊本県文化財資料室の紹介

熊本市南区城南町にある熊本県文化財資料室くまもとけんぶんかざいしりょうしつでは、授業に役立つ考古学習キットこうこがくしゅうの貸出をはじめ、文化財の活用を行う施設です。ほかにも多数の文化財が大学や出版社、放送局などに貸し出されています。また、毎年小中学生向けに体験教室も実施しています。本年度はまがたま勾玉と鏡を作りました。本年度は、製作体験に加えて熊本地震で被災した土器を修復する接合体験も実施され、参加者が熱心に取り組む様子が見られました。



考古学習キット



小中学生向けに実施した今年度の体験教室

地元の文化財にふれる機会

～ 文化財を活用した授業（公開授業）～

文化課では、各地域にある郷土の文化財を活用とした出前授業を実施しています。

本年度は、南小国町立市原小学校^{いちほら}の6年生と山都町立中島小学校^{なかしま}の5・6年生を対象に、それぞれ地元の文化財を使った授業を行いました。

まず、市原小学校では、南小国町の地蔵原遺跡^{じぞうばるいせき}をはじめ、阿蘇郡市の遺跡の出土遺物を実際に手に取り縄文時代や弥生時代の暮らしについて学びました。そして、石を削って勾玉^{まがたま}という古代のアクセサリ作りを行いました。

中島小学校では、山都町の北中島西原遺跡^{きたなかしまにしほらいせき}で出土した青銅鏡について学んだ後、実際に金属を溶かして青銅鏡を作りました。

授業の中では、児童のみなさんが熱心に勾玉や青銅鏡を作る様子が見られ、授業後の感想からも意欲的に取り組めたことが伝わってきました。

授業を参観された方々からも地域の歴史や文化財への関心が高まったと評価していただきました。

県内各地にはたくさんの遺跡があり、貴重な文化財が数多く出土しています。文化課では、実物を活用した取り組みを通して、児童・生徒のみなさんの学びをサポートする活動をしています。



市原小学校での授業の様子

上：出土品を調べています。

下：石を磨いて形を整えています。



中島小学校での授業の様子

左：地域の歴史を学んでいます。

右：線の表面を磨いています。

知る・見る・考える『米が育んだ熊本の歴史』^{はぐく}

平成29年度くまもと歴史発見！Ⅲ

11月11日～1月24日の期間、くまもと県民交流会館パレア（熊本市中央区）で上記の企画展を開催しました。

今回は菊池川流域【米作り、二千年にわたる大地の記憶～菊池川流域「今昔『水稻』物語」～】の日本遺産認定を記念して、「米」を共通テーマにして、温故創生館（11月11日～30日「鞠智城—古代米が映える風景」^{かん きくちじょう こだいまい は}）装飾古墳館（12月2日～28日「お米が育んだ原始美術装飾古墳の世界」^{そうしよくこふんかん}）文化課（1月6日～24日「出土遺物が語る弥生時代の米作り」^{はぐく}）が合同して開催しました。

新たに認定された菊池川流域の日本遺産のほか、熊本地震からの復興に伴う埋蔵文化財の発掘調査、文化財ドクター派遣事業、文化財レスキュー事業、出土文化財を活用した小学校への出前授業の取り組みについてのパネル展示も行いました。



企画展の様子

平成29年度熊本県文化財保護大会（山鹿市）

9月23日（土・祝）に山鹿市民交流センター文化ホールで、平成29年度熊本県文化財保護大会を開催しました。

まず、オープニングアトラクションでは、地元の山鹿市立鹿北小学校による「鹿北茶山唄」^{かほく かほくちややまうた}と、今年度の県文化財功労者として表彰された、荒尾市の上荒尾熊野座神社神楽保存会の子^{かみあらおくまのざじんじやかぐら}どもたちによる「上荒尾熊野座神社神楽」が披露され、伝統芸能を担う姿に多くの拍手をいただきました。

また、開会式では蒲島知事に来賓挨拶をいただき、その後の基調講演「震災復興と埋蔵文化財」と題して、文化庁文化財部記念物課近江俊秀調査官から、熊本の被災文化財を東日本大震災と比較しながら説明をいただきました。

最後に、菊池川流域の日本遺産認定を機に、地域の特色を生かした活動を展開されている方によるパネルディスカッション「日本遺産の今後の活用について」を行いました。

菊池川流域の歴史や文化を再確認し、「魅力ある熊本の宝」を後世に残すために私たちがすべきことは何かを考えさせられた大会となりました。



パネルディスカッションの様子

近代文化功労者顕彰式

平成29年10月28日に、県庁地下大会議室にて第67回熊本県近代文化功労者顕彰式が開催されました。熊本県教育委員会では、熊本県出身者又は在住者（故人を含む）であらゆる分野で近代文化の発展に貢献し、その功績が顕著である方を熊本県近代文化功労者とし顕彰しています。今年度は藤間富士齋氏、細川護久氏（故人）、山北幸氏（故人）の3名の方が顕彰されました。

藤間氏は幼いころから日本舞踊に関わり、古典舞踊を守り続けるとともに、熊本の風土と歴史を素材に創作舞踊にも取り組み、国内外で公演を開き活躍してこられました。

細川氏は、明治の黎明期に熊本洋学校、古城医学校を設立し、近代日本の発展に貢献する人材育成に尽力されました。

山北氏は、戦後の湯前町で下村婦人会を発足させ、女性の自立を目指し、地元の農産物を生かした漬物「市房漬」などを開発、地域ブランドとして全国展開されました。

顕彰者の功績集を作成し、県内の教育機関等に配布し、教育活動への活用を促します。



顕彰式の様子：顕彰者代表挨拶の藤間氏（中央）

第59回九州地区民俗芸能大会（芦北町）について

11月19日（日）に芦北町民総合センターで、文化庁の補助事業である第59回九州地区民俗芸能大会を開催しました。葦北鉄砲隊の勇壮な演舞と、くまモン&芦北高校生によるくまモン体操のオープニングアトラクションにより、会場は大いに盛り上がりスタートしました。

九州各県から9団体（開催地熊本県は2団体）が出場する今大会は、演目も女相撲、狂言、神楽、棒踊り、臼太鼓踊りなど内容も多種多様にわたり、県内外から訪れた約600名の観客を魅了しました。

県外から訪れた方々に熊本地震からの復興をアピールし、さらに伝統芸能を次世代に残すことの大切さを改めて感じた大会となりました。



【熊本県代表水俣市・水俣の棒踊り】



【熊本県代表芦北町・宮の後臼太鼓踊り】

装飾古墳館の教育普及

—装飾古墳館の教育普及・イベント紹介—

装飾古墳館は、平成4年4月に開館した、古代体験教室等を実施する“体験参加型”の博物館です。今回は、平成29年度に装飾古墳館が取り組んだ教育普及に係るイベント活動についてご紹介します。

【古墳館へ5・5・Go!】

装飾古墳館では、ゴールデンウィーク期間中(5/3～5/6)に「古墳館へ5・5・Go!」を実施しました。県民の皆様は古代に親しんでいただくために、楽しく体験活動に参加できるメニューを提供しました。他県からの体験ブースもあり、九州国立博物館が行った「鬼瓦づくり」は大変好評でした。この4日間の来場者数は約8,400人を数えました。



「勾玉づくり」の様子！

【ミュージアムキッズ！全国フェア in 熊本】

装飾古墳館では、6月17日(土)、18日(日)に熊本地震からの復興を願って「熊本の子どもたちを元気にしたい」をテーマに、「こども☆ひかりプロジェクト(兵庫)」と協力して「ミュージアムキッズ！全国フェア in 熊本」を開催しました。

熊本県初開催のこのイベントには、北海道から沖縄まで、全国の博物館等から34ブースの出展がありました。右の写真は、当日に子どもたちが大きな紙に全身を使って絵を描く体験活動の様子です。こどもたちは、日常では体験できない、数多くのプログラムを楽しみました。熊本の子どもたちにとって、夢を描く「時」と「場」を提供した貴重なイベントで、たくさんの笑顔に包まれた2日間でした。2日間の来場者数は約4,400人、のべ体験者数は15,000人以上を数えました。



「大きな絵を描こう」の様子

【古墳館に行かn i g h t—ナイトミュージアム—】

装飾古墳館では、10月14日(土)に「古墳館に行かn i g h t」を開催しました。

夜の時間帯に開催することで、日常の博物館では体験できない、特別な雰囲気^{ふんいき}を醸し出すことができました。

当日の体験活動は、この日限りの特別メニューで、古代人が着ていた「貫頭衣^{かんとうい}作り」、古代人による「装飾古墳ガイドツアー」、古代人が食べた「縄文^{じょうもんしよく}食体験」など、一味違った古墳館の魅力を感じてもらいました。



古代人による装飾古墳の解説

しせききくちじょうあと

史跡鞠智城跡の特別史跡指定に向けて

～平成29年度活動報告～

山鹿市・菊池市に位置する^{きくちじょうあと}鞠智城跡は、東アジア情勢が緊迫する7世紀後半、国土防衛のために築かれた^{こだいさんじょう}古代山城です。

昭和42年に始まる発掘調査は32次を数え、これまでに^{じょうもん}城門、^{じょうへき}城壁、内部施設など重要な^{いこう}遺構が確認されるとともに、『^{はたひとおし}秦人^{ごと}忍^く五斗』と墨で書かれた^{もつかん}木簡や^{くだら}朝鮮半島の百濟から^{どう}将来された銅造菩薩立像など貴重な遺物の発見がありました。

現在「歴史公園鞠智城」として整備されており、園内に併設されている「^{おんこそうせいかん}温故創生館」では、城の歴史、構造などを学ぶことができます。

熊本県では現在、山鹿市、菊池市とともに、鞠智城跡の特別史跡指定に向けて、鞠智城跡の学術的価値を深めるさまざまな取組みを行っています。平成30年1月28日（日）には、東京の明治大学アカデミーコモン・アカデミーホールにおいて、『鞠智城跡 ～その歴史的価値を再考する～』というテーマでシンポジウムを開催し、多くの方々に参加いただきました。

また、鞠智城研究を進めるため、若手研究者を育成する取組みも行っています。本年度で6年目となりますが、4名の研究者が古代山城の立地環境や石垣構築の技術、^{たんさ}レーダー探査による遺構把握など、鞠智城に関連するさまざまな視点での研究を行っていただきました。そして平成30年3月18日（日）には、くまもと県民交流館パレア・パレアホールで研究成果の報告会も行いました。



歴史公園鞠智城



平成29年度鞠智城東京シンポジウム



熊本県文化課キャラクター

かめざらし

文化財通信くまもと第36号 平成30年3月31日

編集・発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本県熊本市中央区水前寺

6丁目18番1号

印刷：有限会社 ソーゴグラフィックス

発行者：熊本県教育委員会

所属：熊本県教育庁教育総務局文化課

発行年度：平成29年度